

## 上杉山中同窓会報



## 学校の歴史は同窓生の歴史

同窓会 会長 佐々木 博  
(十一回生)

戦後七十年という節目の時を迎え、戦争や戦後の生活の大変さを、戦争を知らない世代に伝えなければ忘れ去られてしまふということ、口を閉ざしていた多くの原体験者が、その体験を話し始める。記録も勿論ですが、人が人に向かって話すことは、何よりも心に響くものであり、大きな感銘を受けるものであります。

上杉山中学校も、四中として創立されてから、二年後に七十年を迎えます。現在、同窓生は十五歳から八十一歳まで、二万一千名を超えております。たつ三

年間の中学生生活。人によっては転出入のため一年又は二年しか上中生活を送らなかつた方もいるでしょう。しかし、卒業生にとってはまぎれもなく母校であり、同窓生であります。喜怒哀楽等々思い出は人によって異なるのですが、学校の七年の歴史は、そこで学んだ生徒達の歴史であり、同窓生が築き上げてきたものであります。伝統は、学校が造るものではなく、そこで学ぶ生徒達によって創造、構築されるもので、継承された活動の中からまた

新しい息吹きも生まれて受け継がれていきます。とすれば、学校の歴史の主役は、まさに同窓生一人一人によつて造り出されてきたものといつても過言ではないでしょ。

七十年という節目の年を間近にするにあたり、今まで振り返つたことのない上中という学校に、当時の学友にもう一度思いを馳せてみては如何でしょうか。

最後に、今年で会長を退任致しますが、八年間、校長先生をはじめ教職員の方々、同窓会役員の方々、同窓生の皆様のご協力、ご支援により無事に努められたことに心から感謝、御礼申し上げま



上中玄関への歩道

# 杉山臺

会報第8号  
平成27年10月17日出  
発行所  
仙台市青葉区上杉6-7-1  
上杉山中学校同窓会  
発行責任者 佐々木 博



## 体育館兼講堂の完成

上杉山中学校 校長 須藤 由子

昨年度、佐々木博会長作の上中のスケッチをいただきました。そこには、上中の象徴であったかまぼこ型ガラス張りのモダンな体育館と、総二階建ての木造校舎がいきいきと描かれています。

さて、その旧体育館は昭和三十一年十月九日に落成式が行われました。四代目校長の茂手木良助先生は「杉の友」の巻頭言で「近代の求むる人間は、眞の民主的・人物であり、良き市民である。明るく正しく、美しく、はがねのような強さを持つ人間である。我が体育館こそ、その姿を無言のうちに暗示してくれている」と、当時の最先端技術を結集して建設された体育館の完成への喜びを記されています。

旧体育館建設は、昭和二十七年の創立五周年記念事業の一つでした。二代目校長の佐藤徳市先生が中心となり、「屋内

体操場建設促進期成会」を設立し、学校と保護者が協力して、体育館建設を行政に要望し続けました。三代目校長の佐藤米三郎先生にも引き継がれ、様々な方々の努力と協力が実り、昭和三十一年三月に建設着工し、同年十月に完成しました。しかし佐藤米三郎校長先生は、体育館の完成前にお亡くなりになりました。

当時のことを佐藤校長先生の奥様は「上中十五年」に「主人は昭和二十九年に上中に転任しました。体育館建設が懸案となっていました。PTA会長の阿部源さんと教育委員会への折衝のために、特に昭和三十年夏には、毎日のように出かけていました。また保護者の方々との会合や他校の屋体見学にも出かけていました。

朝も晩も体育館のことが頭から離れず夜もろくに眠らず、十二月頃より「頭が痛い」と欠勤するようになり、十八日には入院しましたが、寝ている場合ではないと起き出し、何度も会長さんをお呼び出ししました。主人は体育館のことを気にしながら脳腫瘍のため昭和三十一年四月十日に亡くなりました。十月落成した体育館を見せたかったと、上中の前を通るたびに思い出しております」と記されています。また当時のPTA会長の阿部さんも「屋体建設に真剣に取り組んだ佐藤校長はその落成も見ないで急逝なさった。悲しい宿命である。略。また当時のご父兄には、屋体建設資金カンパに積極的に参加していただけた。後輩たちは、この新たな記念塔的な屋体建設を成し遂げていただきたい當時の無名の方々の善意と熱意はばらしく、今思い出しても感謝の言葉を贈ります」と寄稿しておられます。

旧体育館が老朽化のため現在の二代目体育館と武道場に建て替えられたのは、平成五年のことでした。

上中にお世話をなつてから四年が過ぎました。その間、「杉山臺」を通して開校当初の校地獲得、校舎や校庭整備、校歌制定、体育館建設など諸先輩のご尽力の一端をご紹介してまいりました。今後も上中の土台作りに奔走された諸先輩への感謝を忘れずに、上中魂と学びの道のそこころを追究し、仙台市内随一の歴史と伝統あるわたくらの中学、上中であり続けることを願つております。

## タイムスリップ

二十二回生 小松 尚哉

それまでお弁当だった昼食が二年生からは「学校給食」が始まりましたね……。

私はと言えば当時、文化部に所属し、生徒会役員をしていました。そして応援団にも所属し、校庭の南側の「相撲場」が練習場所だったのを覚えています。放課後は団員で集まり、学生服に裸足といふ姿で応援の手振りや応援歌、旗振りなど練習をしていたのを想い出します。

今思えば、自分たちの役割を一生懸命こなそうと、自主的に無我夢中で取り組み、やり抜く大切さを中学時代に味わったことで、今の自分があるような気分がしました。

そんな風に、タイムスリップした十五歳の自分や同級生の顔、姿が頭の中で走馬灯のように蘇えりました。今年は「還暦」、私たちの年代は再び歴がリセットされる年でもあります。人生の原点に

日頃の激務に追われ、心はアラシネ(根無し草)のように彷徨い、地元の両親への電話さえ稀になっていた自分しか思ひ浮かばない。

結婚して子供を二人授かり、子供が幼い間はともかくある程度の学齢になれば「単身赴任」もやむなしと考えていたところ、何回かの異動の都度家族の結論は「ついていく」という。それはそれで嬉しいことではあったが、家族のデラシネ生活は更に続いた。

盆や正月、年に一~二度帰省はしたが、滞在は長くて二~三日、TVの高校野球を見れば地元のチームを応援するが、番組欄を見てチャンネルを合わせたりはしない。

そんな家族に一石を投じたのが、ある日突然の長女の宣言、「私は仙台の祖父母ちゃん(あやん)の家に下宿して仙台の高校に通う。」

仙台生まれのDNAが娘にも宿つて、單発的な滞在の経験しかなくても仙

戻ったことを機会に、これからも当時の同級生と変わりなく付き合っていられることを願うばかりです。もちろん、四十四年前から顔や体型は

## セブチメンタル・ジャーニー(感傷旅行)

二十二回生 遠藤 裕

ずいぶん変わっているかもしれません。しかし、再会の折りには、在学時を想い出したのか。しかし、この唐突な宣言、家族一同妙に納得したのを覚えている。

長女は仙台の高校、大学に進み、長男

も仙台の大学を選ぶ。引き寄せられるよう残された我々夫婦にも仙台勤務の辞令が下りる。

仙台に帰つても、級友達の消息は皆目わからない。漸く連絡のついた同級生から更に多くの同級生に繋がり、会えれば悉く昨日の部活の延長のように親しく話しかけてくれる。約半世紀前の交友関係が瞬時に甦る。

その後再び辞令により仙台を離れることがになったが、交友は続く。そしてこのたび定年を迎えた終の棲家として仙台、そして上杉の地を選んだ。

これぞ、人生の「感傷旅行」

娘・息子も去年相次いで結婚し、やはり転勤族である。彼らはどんな心の旅をするのだろう。

今後は折りをみてかつての赴任地を辿る旅(これも感傷旅行かな)に出でみようかと思う。

但し、今度は根無し草でなく、上杉の地にしっかりと根を張つた上での事だ。



校舎



校門



平成26年度同窓会

秋風が肌に心地よい平成二十六年十月十六日、恒例の上杉山中学校同窓会が、第十三代校長加藤進一先生や現校長の須藤由子先生をお迎えし、KKRホテル仙台で盛大に開催されました。幹事役を受け持つたのはその年に還暦を迎える回期生という慣例に従って、第二十一回生です。「恒例の」と前述しましたが、現在のよう定期的に同窓会が開催されるようになったのは開校五十周年記念式典のあった年あたりからと伺っています。間もなく七十周年を迎えますので、二十年近く継続でき



上杉山中学校 合唱部・吹奏楽部

## 平成26年度 同窓会総会報告

二十一回生 早坂 公一

祝辞をいただいた後、現役上中生によるアトラクションが披露されました。若々しくそして清々しい歌声に包まれた会場は一層華やかなものとなりました。余談ですが、私、縁あって今年度の上中合唱審査委員をさせていただきました。その折に感じたのは上中の合唱レベルの高さです。アトラクションで披露してくれた生徒さんたちのよ

た。余談ですが、私、縁あって今年度の上中合唱審査委員をさせていただきました。その折に感じたのは上中の合唱レベルの高さです。アトラクションで披露してくれた生徒さんたちのよ

うことです。改めて感じました。多数参加してくださいました。さて、二十七年度の幹事である二十二回生の紹介と手締めで賑やかな総会も終了し、今回の再会を誓い合って散会いたしました。

総会への参加者は総勢五十五名でした。皆様のご協力に感謝しつつご報告いたします。

## 全力を出し切った東北大会

合唱部 部長 東 瑞貴

「東北大会に出場したい」ただその一心で日々練習を重ねてきました。

私たち合唱部の部員数は他の学校に比べ、とても少ない二十一人で活動しています。しかし、そんな中で

いることになります。これもひとえに佐々木同窓会長を始め役員の方々のご苦労の賜と深く感謝いたします。七十周年にとどまらず百周年百五十周年と継続させていきたいのです。

当日は森淳志副会長(二十回生)の閉会宣言で総会の幕を開けました。校歌斉唱、物故会員への黙祷の後、佐々木博会長(十一年生)の示唆に富んだご挨拶がありました。議長に玉手信一副会長(十七回生)が指名され、事業報告や予算案などの審議が熱心に行われました。すべての提案が承認され、鷲尾邦子副会長(十一回生)の閉会宣言をもつて無事に終了いたしました。

第二部は二十一回生が進行する懇親会です。須藤校長先生、南澤PTA副会長、第十三代校長加藤進一先生のご



合唱部 東北大会出場

思いがぶつかり、上手くいかないと生きもありました。しかしそんな日々を乗り越えたからこそ、ここまでの大合唱というものは、心が一つにまとまる努力を積み重ねてきました。合唱も私たちちは東北大会出場を目指して朝練習や新しい練習法を取り入れるなど努力を積み重ねてきました。合唱といふものは、心が一つにまとまりたい限り、決して良いハーモニーは出来上がりません。そうわかつていても、お互いの思いがぶつかり合うことも何度もありました。

本番、私たちの胸は緊張や不安、そして大きな期待でいっぱいでした。私たちが歌った自由曲はア・カペラの「めばえ」という曲でした。一音一音をていねいに歌い自分たちの声がホールに響きわたるのがわかりました。そして歌い終わつた瞬間、涙が込み上げてきました。自分の全力を出し切った嬉しさと、あふれんばかりの達成感でいっぱいでした。

## 第十六回卒業生(昭和四十年春卒業)の同期会

十六回生 千葉 健

これまで、おおよそ五年に一回の頻度で同期会を開催してきました。どの回も大体、四十人から六十人くらいの出席でした。

今回は「卒業五十周年記念」と銘打つての同期会、六十四名が駆け付けてきました。七月十二日、KKRホテル仙台。

十六回生の我々は卒業時、十四クラスまであつてマンモス校と呼ばれています。当時の面影は現在の母校にはまったく見出せません。体育館も生徒会館も音楽室も理科室も何もかも

が普通教室に転用されていた時代です。

学校のブールなんか夢のまた夢。

それでも同期会を開くと懐かしい面々が顔をそろえます。危ない面々、おしとやかな彼女たち、頭脳の優れた人物たち。五十年たつても中学時代そのままです。何も変わっていないまま

会話は時代をさかのぼって昭和三十七年八月、東京オリンピックの三十九年にタイムスリップ。何時もの通り解散「御開き」が寂しい同期会でした。

今回から、恩師招待はありませんでした。あの先生も、そう、あの先生も

亡くなられたと聞いていたからです。  
そして、もう一人マドンナ。

## 上杉山中 近況報告 加藤 則幸 教頭

加藤 則幸

力の高さが伝統的に維持されています。

二学年四クラス、三学年五クラス、杉の子学級二クラス計十七クラス、生徒数五〇三名でスタートしました。「未来に向かって、生き生きと心豊かにたくましく生きる生徒の育成」を目標に、生徒・保護者・地域社会から信頼される学校を目指して教育活動を進めていきます。

二学年四クラス、三学年五クラス、杉の子学級二クラス計十七クラス、生徒数五〇三名でスタートしました。「未

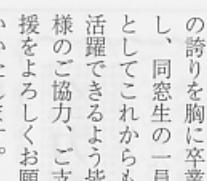
来に向かって、生き生きと心豊かにたくましく生きる生徒の育成」を目標に、生徒・保護者・地域社会から信頼される学校を目指して教育活動を進めていきます。



1年 陶芸体験



2年 NEWソーラン



3年 阿吽太鼓

上中生ですが、さらに、九月の大樹祭、十一月の球技大会などの学校行事を通じて仲間との一体感を高めています。

そして、一人一人が上中生であるとの誇りを胸に卒業しつゝ、同窓生の一員としてこれからも活躍できるよう皆様のご協力、ご支援をよろしくお願ひいたします。



「上杉'65」卒業50周年記念パーティ

### 定期総会のご案内

定期総会は、毎年10月の第3土曜日に開催しています。

会場、時間についてはその年の当番幹事が決めます。当番幹事は、その年度に還暦を迎える回生が担当いたします。是非、お誘い合わせの上ご参加下さい。

### 上中ホームページのご案内

上中の最新情報が分かります。同窓会のコーナーもありますので、是非ご覧下さい。

[仙台市立上杉山中学校](#) [検索](#)

## 編集後記

本会報の題字は、前会長木皿謙氏の揮毫によるものです。

さて、今年度もすばらしい伝統「上中魂」を受け継ぎ、文武両道で大活躍しています。学習面では日々、活気と真剣さのある授業が展開されています。その結果、仙台市標準学力検査、全国学力調査の結果にも上杉山中の学

生のように文武両道で活躍している

(一回生 芳賀)

ます。

さて、今年度もすばらしい伝統「上

中魂」を受け継ぎ、文武両道で大活躍

しています。学習面では日々、活気と

真剣さのある授業が展開されています。その結果、仙台市標準学力検査、

全国学力調査の結果にも上杉山中の学

生のように文武両道で活躍している

ます。

さて、今年度もすばらしい伝統「上

中魂」を受け継ぎ、文武両道で大活躍

しています。学習面では日々、活気と

真剣さのある授業が展開されています。その結果、仙